

津麦ニュース 令和3年産

作柄報告版

令和3年 10月19日発行

津地域農業改良普及センター

電話:059-223-5103

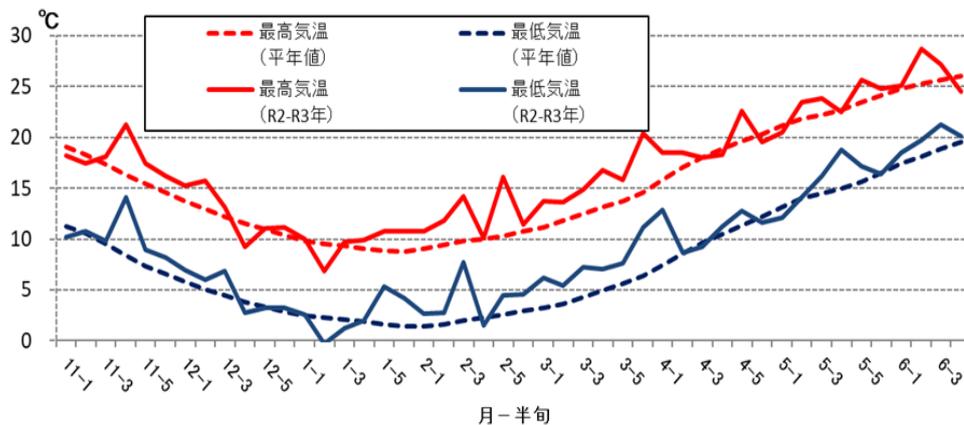
<生育経過>

播種時期の11月は天候に恵まれ、作業は順調に行われました。12月半ばから1月半ばにかけて一時的に気温の低い時期がありましたが、生育期間を通じて概ね平年より気温が高めに経過し、生育が進みました。特に3月の気温が高かったことから出穂が早まり、早いところで3月26日頃から始まり、出穂期のピークは4月第1半旬と平年より10日程早くなりました。開花は4月6日頃から始まり、4月中旬には多くのところで開花期を迎えました。出穂期以降、5月上旬までは日照に恵まれましたが、5月中下旬の日照が非常に少なくなりました。成熟期は平年より5日程早く、11月上旬播種で5月25日～28日頃、11月中旬播種で5月29日～6月1日頃となりました。

<気象経過>

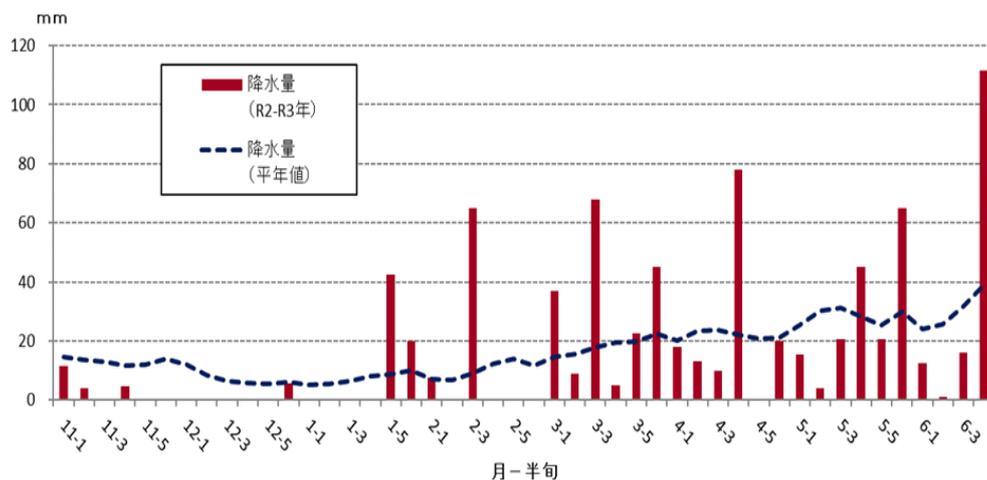
○気温

12月第4半旬～1月第2半旬を除くと生育期間を通じ、気温は高く推移しました。



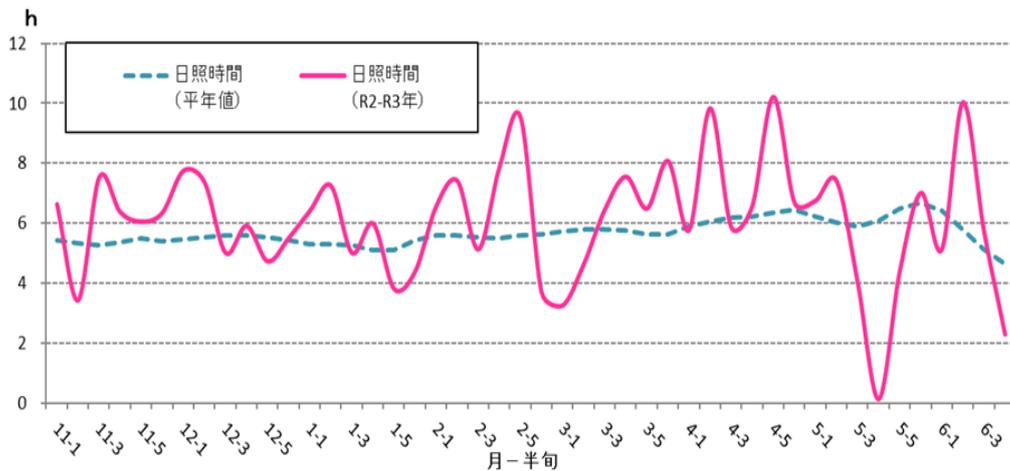
○降水量

1月第4半旬までは少なかったものの、以降は周期的にまとまった量の雨が降り、2月～5月の降水量は平年を上回りました。



○日照時間

5月上旬までは概ね平年より多照に経過しましたが、5月第3半旬～第5半旬にかけての日照時間が極めて少なくなりました。



<作柄の概況>

播種時期の天候に恵まれたことから、苗立は良好でした。その後も順調に生育し、茎数(穂数)は確保されましたが、2～5月にかけて降水量が多くなり、排水の悪いところでは葉の黄化など湿害が見られました。排水条件が良いほ場では外観上の湿害は見られなかったものの、根の活力が低下するなど、麦の生育や収量に影響があったと思われます。また、登熟期後半となる5月中下旬が日照不足となったことから、粒の肥大に影響し、千粒重が小さくなり、調製時に網下となる粒(屑麦)の割合が多くなりました。このため、豊作であった令和元年産、2年産と比較すると単収は低くなりました。

なお、収穫前に雨が続き、刈り遅れによる品質低下が心配されましたが、収穫適期となった5月終わりから6月初めにかけては比較的好天が続き、適期に収穫を行うことができました。

	令和3年産	(参考)令和2年産
津市 小麦平均単収	274kg/10a	325kg/10a

数字は普及センター調べ

○令和3年産小麦生育基準ほの成熟期調査

調査場所	品種	播種日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	出穂期	成熟期
芸濃	あやひかり	11月21日	80.0	9.2	384	4月14日	6月1日
殿村		11月13日	78.2	10.0	262	4月4日	5月25日
白山		11月14日	96.1	9.9	516	4月3日	5月29日

○令和3年産小麦生育基準ほの収量調査結果

調査場所	品種	精麦重 (kg/10a)	千粒重 (g)	タンパク含有量 (%)
殿村	あやひかり	361	35.0	7.9
白山		609	39.5	8.1

(参考)

令和2年産小麦生育基準ほの千粒重の平均は44.4g

※精麦重、千粒重は水分12.5%、タンパク含有量は13.5%に換算した値

<令和4年産の対策>

1 排水対策

小麦は生育期間を通じて湿害にあいやすく、排水管理の徹底が重要です。播種前のチゼル深耕や排水溝の設置によりほ場の排水性を高めましょう。なお、排水溝は連結し、ほ場の排水口につなぐとともに、冬場に溝が崩れていないか点検を行い、補修を行いましょ。春以降に降水量が多くなるため、それまでに排水溝の整備をしておきましょう。

2 土づくり

小麦の播種前に土壌診断を行い、診断結果に基づいて土壌改良を行いましょ。

土壌の酸性化による生育障害が一部で発生しています。pH6～6.5になるよう石灰資材を施用して酸度矯正を行いましょ。

堆肥の施用により、土壌の物理性の改善と地力向上を図り、後作大豆や水稲の収量・品質向上にも効果があります。

3 追肥

小麦の収量確保には、穂数の確保と粒の充実が必要で、分けつ期に十分な栄養を与えることが重要です。肥切れは収量低下の要因となる一方で、過剰になると倒伏等の原因となります。「つなぎ肥」を含め、「追肥」は生育状況に応じて行いましょ。

全量元肥施肥の場合は、基本的に追肥不要ですが、年によっては後半に肥料切れが見られる場合があり、状況に応じて追肥を行いましょ。

あやひかりは、タンパク含有量が高くなり過ぎることを避けるため、出穂期以降の追肥はやめましょ。

4 赤かび病防除

防除の適期は、開花始期から開花盛期です。開花前や開花後の防除では効果が劣ります。気温にもよりますが、開花期は出穂の7～10日後が目安です。必ず開花を確認してから防除を行いましょ。

5 収穫

収穫作業を開始する目安は、穀粒水分が28%以下となってからです。しかし、成熟期後、雨にあたると穂発芽が発生したり、外観も悪化して大きく品質を低下させます。雨害を防止するため、成熟期近くになったら収穫の準備を行い、天気予報や生育状況を注視して、雨が続きそうな場合は適期より少し早め(水分30%余)から収穫作業を開始しましょ。